



きれいな学校 輝く笑顔 ~J(授業) A(挨拶) S(清掃) MI(身だしなみ) N(仲間)~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

## 君は、小石投げをしたことがあるか よく遊び、よく学べ、大中生！

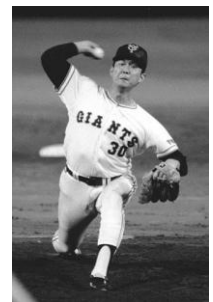
校長 新井 敬二郎

学校総合体育大会、みなさんよく頑張りました、今も3年生の活躍は目に焼きついています。県大会に出場する選手はさらなる「高み」を目指してください。ところで、ブラジルW杯アジア最終予選、日本代表強かったですね、とくにオーストラリア戦は手に汗握る好試合でした。7月後半にはロンドンオリンピックも始まります。スポーツファンにとっては目が離せない時期がやってきます。時差は9時間、寝不足にならない範囲で観戦しましょう。

ところで皆さんにとって遊びって何ですか、遊び場はどこですか。FKの名手日本代表の遠藤保仁選手の遊び場は、生まれ故郷桜島の山道だったそうです。ただ通学するだけでは退屈だ。幸い活火山の桜島のふもとはいろいろな形状の石ころが転がっていた。遠藤選手は語る「形によって転がり方が違うんです。どうすれば真っ直ぐ蹴れるか。回転を与えたり、アウトにかけたり、あれこれ工夫しました。キックの微調整が下手ではないのは、子どもの頃、たくさんの石ころを蹴ってきたおかげかな、と感じる時があります。」うーん、なるほど、本田圭佑選手へのバツグンのアシストはここに起源があったのですね。



校長先生の世代のヒーローと言えば、怪物江川卓さんです。江川さんは少年時代を静岡県佐久間ダム近くの小さな集落で過ごした。遊び場は天竜川だった。向こう岸は崖になっており、そこを目がけて来る日も来る日も小石を投げた。対岸までは100メートルほどの距離があった。低学年の頃は20~30メートルで失速し、小石は水面にポジションと消えた。無理もない。大人が投げても川の真ん中あたりまでしか届かないのだ。それでも少年は来る日も来る日も小石を投げ続けた。やがて50メートルが70メートルになり、ある日、ついに「ガシャーン」という心地よい音を聞いた。小石が対岸の崖に届いたのだ。この遊びを始めて3年が経っていた。いかにして小石を対岸に届かせるか。少年は工夫を重ねた。小石に飛距離を持たせるには風に乗せるしかない。指のしなりを利用し、小石にスピンをかけた。「押すのではなく(指を)引くイメージ」。ホップすると言われた江川さんの快速球は、ここに端を発する。



みなさんは、小石投げをしたことがありますか。まもなく長い夏休み。ゲーム機や携帯電話ばかりいじってないで、遊ぶなら外で遊びましょう。「よく遊び、よく学べ、大中生！」真っ黒に日焼けした君たちに会えることを楽しみにしています。

7月13日(金)は大久保中学校の開校記念日です。

本校は、戦後間もない昭和22年に大久保村立大久保中学校として開校し、大久保小学校の校舎を一部転用して授業を始めました。当時は、全校生徒で140人程度だったそうです。その後時は流れ、今年が66年目、卒業生徒数も1万人を超え、まさしく伝統ある「地域の学校」となりました。みなさんもこの一人として伝統の重みを感じ、さらに発展させていきましょう。